



子供とのかかわり

待って見ていられますか？

茨城県教育委員会「平成29年度家庭教育ブック～すくすく育ていばらきっ子」から

昨日(10/5), 就学時健康診断がありました。その際、「平成29年度家庭教育ブック～すくすく育ていばらきっ子」(茨城県教育委員会)(以下、冊子)を配布し、私も教員として、そして、子供を育てた母として、いくつかのお話をしました。その中の「待って見ていられますか？」については、話をしながら、私自身のこれまでを振り返る機会にもなりました。みなさんはいかがですか。お子さんを待って見ていられますか？冊子の文面には次のようなことが記載されています。

- Point (1) 子供には子供のやり方とペースがあります。子供のやることを寛大な目で見てあげられると、待つことができます。
- (2) 子供の伸びる可能性を信じてあげられると、待つことができます。

ちょこっとアドバイス 親の出番を間違えないで

子供が越えなくてはならないハードルを親が取り除いてしまったら、子供は成長しません。子供が自分で考え、超えるべきことなのか、それとも親がハードルを取り除いてあげる問題なのか、親の出番とそうでないときとをよく考える必要があるのではないのでしょうか。

本校教職員は、「親」というところを「教職員」と置き換えて捉え「子どもが主役 子どもが考える」場面を今後も大切にしていきます。

昨日、5年生で次のようなことがありました。様子を紹介します。

ミニチャンピオン集会を開催していました。

個人またはグループで得意なことを発表する会でした。マジック、サッカー、ブレボー、ビートボックス、調べたこと発表など、その内容はさまざまでした。



ここまで招待状の作成とそれを届ける時のあいさつ、企画、進行、準備などは、学級の係が中心となり全員ですすめたとのことでした。「担任が提案し決めてしまえば早いこと」「担任がすすめてしまえばスムーズに運営できること」はわかっている、「時間がかかっても」「スムーズにできないことがあっても」あえて「見守る担任」の横田先生の姿がありました。任せた以上は、子どもを信じて、口出しせず笑顔で…。

終わった後は、褒めることば、認めることばがありました。子供たちには、満足感や達成感があったのだと思います。ステージに駆け上がり、プログラムにはなかった歌まで聴かせてくれました。成長には、机上だけでは学べない子供たちの体験や経験、そして、私たちの見守り・褒め言葉が必要だと再認識した5年生の活動でした。今日のことを大きな自信にして、ますます伸びゆく子供たちと確信した時間でした。



茨城県教育委員会「平成29年度家庭教育ブック～すくすく育ていばらきっ子」の内容は、本校ホームページのトップページにある「家庭教育応援ナビ『すくすく育ていばらきっ子』」で、ご覧いただけます。